

アレルギー・膠原病疾患

科目責任者 池 田 啓
学年 6 学年

I. 前 文

本講義では、アレルギー疾患およびリウマチ膠原病における重要事項の講義を行う。既に系統講義・実習で履修していることを踏まえ、国家試験対策となる再確認と地固めを行う。

II. 担当教員

内科学（リウマチ・膠原病） 池 田 啓
内科学（リウマチ・膠原病） 前 澤 玲 華
内科学（呼吸器・アレルギー） 清 水 泰 生
内科学（呼吸器・アレルギー） 中 村 祐 介

III. 学修の到達目標

講義や実習で履修したアレルギー・膠原病学の知識を整理し、成因、病態、検査、治療、予後などを総合的に理解して、医師国家試験に出題される一般問題、臨床問題に正答できる学力を修得する。

IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（アレルギー60分、膠原病60分）

3年時のアレルギー・膠原病領域の系統講義の資料に目を通し、知識を整理し、不明の項目は教科書や参考書で確認する。

事後学習（アレルギー60分、膠原病60分）

アレルギー・膠原病領域の過去の一次卒業試験問題や医師国家試験問題などを参照し、知識を整理する。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	7	17	木	4	アレルギー疾患のまとめ（1）	内科学（呼吸器・アレルギー） 清 水 泰 生	1
2		17	木	5	アレルギー疾患のまとめ（2）	内科学（呼吸器・アレルギー） 中 村 祐 介	1
3		17	木	6	膠原病のまとめ（1）	内科学（リウマチ・膠原病） 池 田 啓	1
4		18	金	1	膠原病のまとめ（2）	内科学（リウマチ・膠原病） 前 澤 玲 華	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

医師国家試験形式の試験により評価する。原則として60%以上を正答したものを合格とする。

VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）における区分

各論（XIアレルギー性疾患、膠原病、免疫病）-1（アレルギー性疾患）、-2（膠原病と類縁疾患）

VIII. 課題に対するフィードバックの方法

質問のある場合は、リウマチ・膠原病内科秘書へ連絡してください。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	